障がい者スポーツの活動について

京都府議会議員　園崎　弘道

パラリンピック・パワーリフティング ナショナルトレーニングセンター

- 京都府立心身障害者福祉センター附属リハビリテーション病院
- サン・アビリティーズ城陽

京都府立心身障害者福祉センター附属リハビリテーション病院

サン・アビリティーズ城陽

駐車場

⇒宇治田原方面

リハビリ病院の看板表記有り

城陽支援学校

旧３０７号

国道３０７号

←京田辺方面

世界のパラリンピックの起源

- 1948年。医師グッドマン博士の提唱によって、第2次世界大戦で主に脊髄を損傷した兵士たちのリハビリの一環として、ロンドン郊外のストーク・マンデビル病院内で開かれたアーチェリーの競技会が前身。

日本のパラリンピックの起源

- **1964年。**東京パラリンピックの開催。現在のアジアパラの前身となる国際大会「フェスピック大会」開催に尽力。中村裕医師は日本におけるパラリンピックの父。60年代にグットマン卿に師事。

サン・アビリティーズ城陽へのNTC誘致

- パラリンピック競技を京都府に誘致しようと提唱されたのは、京都府立医科大学特任教授の久保俊一先生(当時は副学長）。菱田嘉明元衆議院議員から要請を受け、地元府議である園崎弘道府議も積極的に誘致活動を展開。ナショナルトレーニングセンターに必須である空調を設置した京都府、宿泊施設改修や送迎担当を担った城陽市、施設管理者である京都府立心身障害者福祉センターの塚脇康宏副所長、医科学トレーニングについては附属リハビリテーション病院の徳永大作院長等、多くの方々の積極的な協力を得て誘致に成功した。

久保俊一元副学長

城陽ナショナルトレーニングセンターの特徴

競技団体

パラ・パワーリフティング

月に１回程度の合宿によって
競技力の向上を図る

医科学サポート
府立医大　リハビリ整形

- 科学的な分析。医師による助言。

支援組織
NPO京都スポーツ・障がい者推進協会

- パワリフ連盟と地域との間を取り持つ
- 京都府・城陽市との力強い連携

この間の成果

団体として

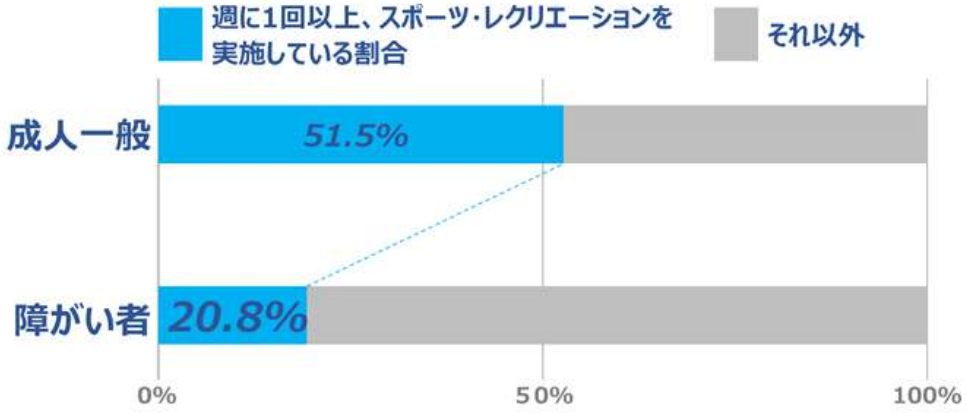
- 平成28年11月22日、当協会の設立
- 平成29年　5月 9日、NPO法人の認証
- 令和　1年11月 1日、認定NPO法人の認証

綾瀬はるかさん　城陽市に来ていた

行政への提案

- 井手町に新設、長岡京市に移転改築される特別支援学校において、地域スポーツクラブの活動を想定して、体育館や運動場の地域開放を可能とする基本設計がなされた。
- 京都府全域、城陽市立小中学校でも、パラリンピアンの体験型講演会などが継続開催。

鈴木スポーツ庁長官にも提言



2021年1月久津川小学校６年
山本恵理選手　明日チャレ

市民・府民へ

- パワーリフティングの魅力を伝えるべく、パラスポーツ講演会や体験会。
- 車いすバスケット元日本代表、パラリンピック伴走者の講演。
- 城陽福祉ふれあい祭りや商業施設ブランチ松井山手イベントで、ボッチャ体験会を実施。
- パワーリフティング選手の世界選手権壮行会を主催。選手を応援するとともに、広く内外に発信。
- FM宇治、洛タイ新報、広報城陽、チラシ配布。

城陽期待の星、中川選手は、「触れる会」で体験に参加。その後、競技をスタート

城陽福祉ふれあい祭りで、パラスポーツ講演会を実施・

「東京オリンピック・パラリンピック」のその先

幅広い競技を応援

- パラ・パワーリフティングから始めた活動
- 車いすバスケ、パラ伴走者。ボッチャ。
- フィギュアスケートなど　　へチャレンジ

トップアスリートを身近に感じてもらいたい

紀平選手、宮原選手らを育てた濱田コーチは、
情熱大陸にも出演。（犬の散歩コースは水度神社）

踏み込んだ活動

- 城陽市ボッチャ協会の設立支援
- 地域スポーツクラブの設立支援
- 放課後児童クラブで体験会

この地域でスポーツをする人を増やしたい